

オンライン懇談会実施結果

日 時 令和2年10月27日(火) 10:00~10:40
 場 所 生駒市役所3階303会議室
 出席メンバー 坂本・藤尾・小山・奥田(敬称略)
 事務局 木戸・鳴川・久保
 参加者 いこま育児ネット 8名
 配布資料 ・プラスチック製容器包装、ミックスペーパーリサイクルチラシのURL案内
 ・ごみ組成調査の結果(パワーポイント)をパソコンで表示

●内 容

○ごみの分別事例を具体的に説明

45ℓのごみ袋から、プラスチック製容器包装ごみやミックスペーパーを分別し、ごみ袋のサイズを小さくする。

また、生ごみを減らす方法として、キューロの活用、エコクッキングの実践、手つかず食品などの食品ロスの削減について説明する。



○質疑応答

Q. 現在、衣類の回収はどうなっているのか。

A. 地域の集団資源回収では衣類の回収をやめている業者があるが、生駒市での回収はコロナの時期も継続して回収している。

Q. 市の古紙回収は紙袋に入れて回収して良いか。

A. 紙袋に入れて排出しても良い。



●オンライン懇談会を終えて

・今までの懇談会は対面で反応が見えたが、オンラインは反応が見えず、対応が難しく進めづらさを感じた。

●参加者から寄せられた参加感想まとめ

(良かった点)

- ・人数は少なかったが生駒市の各地の方に一斉につながることができた。
- ・落書きをしたペットボトルは資源回収できないことを知った。
- ・たまごのパックのシールは、はがさなくていいことは知らなかった。
- ・資源ごみを燃えるごみの日に出せることを知らなかったので助かった。

(気になった点)

- ・プラごみ、ミックスペーパーとは何かを、まず最初に簡潔に説明していただけるとわかり

やすいと思った。(まだまだ廃プラとプラごみの違いが判っていない方が多いため)

- ・マスク着用で声が聞き取りにくかった。
- ・画面に男性が3人並ぶと威圧感がある。3台のパソコンにわかれ、マスクをとって話をされたら良かったのではないのでしょうか。
- ・他にも参加者がいるなら、それぞれがスマホやパソコンで参加されたらよかったのでは？
- ・ゴミ袋が前面にあったため、ゴミ袋のガサガサ音で声が聞こえにくかった。(zoomでは大きな音が優先されるため)
- ・マンションや戸建て地などでの少人数懇談会を想定されていたが、オンラインで実施した場合はどんな方が参加するかわかりません。オンラインに対応したプログラムや構成を考案された方が良いでしょう。今回の場合は、いこま育児ネットの参加メンバーが対象だったので就園前のお子さんがある家庭というくくりでしたが、そういう配慮は感じられなかった。
- ・対面ではないので、パワポをもっと活用してほしい
例：プラごみ、ミックスペーパーの定義・ごみの分別の例、キエーロの説明など
- ・時間が40分なのは特に問題ないが、やはり質疑を丁寧にとりたい場合は1時間程度は必要なのでは？

(その他)

- ・坂口商店は現在マンションの資源ごみの回収で、服・鞆等の回収をしているが、伝票に計上していない(0円でもいいので回収キロ数を計上してくれたら市からの補助金はでるのか?)、こども会等には回収できないと言っていることがわかりました。
- ・主催者側がオンライン講座に慣れる、オンラインならではの進め方に特化しなければならない等、課題はありますが、全市から参加者を募ってオンライン講座を定期的実施できれば、より多くの方にごみ分別、削減について周知できる可能性を感じました。今後ともよろしくお願い致します。

●反省点

- ・お互い、説明の進め方に相違があり、事前に、オンライン懇談会のスタイル(セミナー方式か意見のやり取りを伴う懇談会方式)について、調整が必要であると感じた。
- ・オンライン懇談会用アドレスの招待時などに、説明の進め方のルールについても相手方に伝えておく必要がある。